

第4回「農林水産研究基本計画を踏まえた今後の国際研究行政のあり方」検討会 議事要旨

1 開催日時 平成28年4月27日(水)

2 開催場所 筑波産学連携支援センター本館2階第一特別会議室

3 出席委員 岡村英喜、土居邦弘、中村ゆり、中山一郎、原田信彦、平田泰雅、八木一行(敬称略)

4 議事

○第3回検討会に引き続き国際研究行政のあり方の打ち出し(具体案等)について議論が行われ、委員からの主な意見は次のとおり。

- ・将来的にオープンイノベーションの活用を明記されているのは大変素晴らしいことだと思う。プレイヤーとして、例えばJICAだとか、民間で地球環境研究、あるいは日本の食を世界に広げるところで力のある人達も取り組んだネットワークなど書けると具体性ができ、長期的な展望も出てくると思う。
- ・将来的にオープンイノベーションの場の検討とあるが、知の集積の方では準備段階からいろいろな委員会みたいなものを立ち上げてやれていたかと思うが、今回の提言の中で始めるべきと提言するのか、あるいは、将来的に考えなければいけないということを記載するのか。
- ・共通課題のところ、我が国の研究力向上は、目的ではない。例えば、農林水産業のイノベーションを実現するとか、もう少し濃い言葉を入れないと、共通課題として研究力向上という何か途上国の目標みたいになってしまう。例えば、世界の研究をリードするとか、日本の強みを活かしてそれを実施するような言葉で目標らしいものを最初に入れて欲しい。
- ・イノベーションもインフラも両方含め、結果としてイノベーションであるかもしれないけれど、要はそれをやるために何を生かすかという話になれば良いのではないか。
- ・我が国の大学との連携や、企業の連携等が出ているけれども、農学以外、例えば統計解析だとか、情報科学とか、そのときの連携とかの活用みたいな一文が入ると視野が広がるという気がする。
- ・工学分野との連携、農工連携みたいな形の記述もお願いしたい。
- ・G7新潟農業大臣会合宣言で謳われている内容も付け加えたら良いと思う。

以上.